

## 令和3年春の外国人叙勲 台湾人受賞者（3名）に対する勲章伝達式の実施について

令和3年4月29日、日本政府は令和3年春の外国人叙勲受賞者を発表し、台湾からは、蔡清彦氏が旭日中綬章、蔡焜霖氏と楊明風氏が旭日双光章を受章されました。

台湾における新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、勲章伝達式の開催が遅れておりましたが、泉裕泰・当協会台北事務所代表より9月15日に蔡焜霖氏、11月26日に蔡清彦氏に対して、10月15日に加藤英次・当協会高雄事務所長より楊明風氏に対して、それぞれ勲章が伝達されました。

### 蔡清彦氏

勲等：旭日中綬章

主要経歴：工業技術研究院（ITRI） 理事長、亜東関係協会科学技術交流委員会主任委員、台日産業技術合作促進会理事長

受章理由：科学技術分野における日本・台湾間の協力促進に寄与

主な功績：

- 台湾日本関係協会（旧：亜東関係協会）の科学技術交流委員会の主任委員として、日台産学官のトップが交流を行う「台日科学技術フォーラム」を毎年開催。在任期間中に日台企業連携に関するセミナーの開催をしたほか、多くの関係機関や企業への訪問を通じて、日台企業間の橋渡しに尽力。
- 工業技術研究院（ITRI）の理事長在任中に二度ファンドを設立。日台連携によって事業拡大を目指す台湾のベンチャー企業への資金面の支援に尽力。



泉代表より勲記伝達



蔡清彦氏による謝辞

### 蔡焜霖氏

勲等：旭日双光章

主要経歴：翻訳家

受章理由：台湾における日本文化の紹介及び相互理解の促進に寄与

主な功績：

- 日本漫画の翻訳や日本の漫画を参考にした台湾製漫画、小説などを掲載する雑誌『王子』を創刊。
- 漫画という娯楽の紹介を通じ、日本に関する情

報や、当時の日本の最先端の画風・作風を台湾に啓蒙。その後の台湾における日本式漫画の発展に大きく貢献。

- ・雑誌『王子』を刊行する王子出版社を通じ、台湾台東の少年野球チームとリトルリーグ世界一となった日本の和歌山県チームとの交流試合の支援を行い、日台の草の根交流に貢献。

主な功績：

- ・日本統治時代に台湾総督府の土木技師であった八田與一技師が建設を監督した烏山頭ダム及び大規模灌漑施設・嘉南大圳の管理・維持。
- ・八田技師の功績継承及び日本と台湾の友好親善の発展に大きく貢献。



泉代表より勲記伝達



加藤所長より勲記伝達



蔡焜霖氏による謝辞



楊明風氏による謝辞

## 楊明風氏

勲等：旭日双光章

主要経歴：元嘉南農田水利会会長

受章理由：日本・台湾間の友好親善及び相互理解の促進に寄与



### 受章に際して

元工業技術研究院 (ITRI) 董事長 蔡清彦氏

今年台湾の新型コロナウイルス感染が爆発的に拡大する中、六度にもわたり日本から台湾に多くのワクチンをご提供いただき、心よりお礼申し上げます。困難を乗り越え、ご支援いただきましたその真摯なご対応は、永遠に私どもの記憶に残ることでしょう。

この度、台日の関係促進への功績が認められ、旭日中綬章をいただくことができました。大変光栄なことであり、大変うれしく思っております。

私は幸運なことに、台湾の工業技術研究院の董事長、台湾日本関係協会科学技術交流委員会の主任委員、台日産業技術合作促進会の理事長、そして工業技術研究院傘下の創新工業技術移転公司 (ITIC) 台日基金の董事長を務めさせていただいていた時期に、台日の科学技術交流と協力の促進という仕事に関わることができました。大変光栄で、大変意義のあることだと存じております。このたびの受章は皆様のご協力あってのもので、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

周知のとおり、台湾と日本は経済、貿易、産業、文化等のあらゆる方面で大変緊密な関係にございます。日本は台湾にとって第三の貿易パートナーであり、件数で見ると、日本は台湾にとって最大の投資国でもございます。国際産業分業構造において、アメリカ・日本・台湾はこれまでに、いわゆる「ゴールドトライアングル関係」を形成し、台日の高度経済成長が始まりました。その後、中国が台頭してきたことにより、台日合作は中国市場に進出するための最短経路となりました。今は、米中貿易戦争の影響下において、台日は協力して東南アジアの国々も加えて「世界にサプライチェーンを拡大する」最良の組み合わせとなり、

「新ゴールドトライアングル関係」を形成しております。

台日の協力、特に中小企業による協力は、「ウィンウィン」さらには「トリプルウィン」のきっかけを作ることができます。日本の先端技術や材料に加え、台湾のフレキシブルな生産方式やスピーディな経営能力は、台日企業が協力し、第三地への投資を成功させる上での礎となるでしょう。これまでもすでに多くの成功例があり、私は工業技術研究院の任務として、台日基金 (Golden Asia Fund) を設立し、積極的にマッチングを行い、台日企業の協力と買収の機会を提供してまいりました。ファンドから上場する企業も続々と出てきており、今年初めには、協力パートナーの日本三菱 UFJ キャピタルから台日にとって三番目となるファンド設立のお誘いがありました。これは双方による長年の信頼と努力の成果であると言えます。

台湾と日本は地理的にかなり近く、ともに民主主義という同じ価値観と企業文化を有しております。特に、ポストコロナ時代においては、国際経済秩序が再構築され、台日双方の各界による努力の下、台日はより緊密な協力パートナー関係へと向かっております。私もそれに関わることができ、大変幸甚でございますとともに、双方のより大きな未来へ向かって、今後も台湾と日本の友好の種を撒いていくことを希望しております。

改めましてこの度は、このような大変榮譽ある賞を受賞させていただき、日本政府に感謝の意を表します。

(原文は中国語。台北事務所にて日本語訳。)

明日への誓い——叙勲受章を受けて

翻訳家 蔡焜燦氏

この度は、日本政府より、台湾における日本文化の紹介及び相互理解の促進への寄与を理由として、「旭日双光章」を賜り、無上の光栄と感激しています。とりわけ、世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるい対応が迫られている歴史的時期であり、また日本政府の複数回にわたるワクチン贈与に台湾で「日本ありがとう」の声が響いているこの時期に、一介の老人でありかつて「反逆罪」を犯したとされた私が、このような特別な光栄と名誉にあずかり、心からの深い感謝の念とともに、人生の来し方を振り返り、うたたの感に堪えません。

私は、1930年、日本統治時代の台湾中部の小さな町である清水で生まれ、終戦までの幼稚園1年、国民小学校6年、中学校3年の計10年間の日本語教育を受けました。当時中学3年生だった1945年の終戦後、台湾と日本の関係は突如断絶されました。終戦から僅か5年後、高校を卒業して間もなく反乱罪で投獄され、台北や緑島等の監獄で10年間もの日々を過ごしました。日本統治時代の学校で楽しく学んだ10年、そして終戦後の監獄で耐えた10年、この2つの主旋律が私の人生の楽曲を構成しています。私のすぐ上の兄・蔡焜燦は、前の10年では日本語で書かれ或いは翻訳された世界文学の名著と心温まる名曲名歌で私を百花絢爛たる文化の花園にいざない、後の10年では絶え間なく降りかかる火の粉に右往左往する弱虫の弟を叱咤激励し支え続けてくれたのでした。

1960年に出獄した際、台湾はすでに長期の戒厳令下にあり、権威主義的統治体制が確立し、禁書や禁歌等言論の自由が抑圧され、私が生まれ育った故郷は厳寒が草木を枯らす文化砂漠となっていました。他方、日本に目を向けると、戦後の

焼け野原からたくましく立ち上がり高度経済成長の時代を迎えており、文化出版事業も大きく発展し始めていました。私は、党国教育下における台湾の子どもたちの心の発達への影響を憂慮し、日本の児童向けの書籍、絵本、漫画等に倣う児童誌『王子』の創刊を決意しました。対象の読者層は6歳～12歳の少年少女たち、まさに私が投獄され、多くの台湾の若者が尊い命を奪われた1950年代に生まれ育った子どもたちでした。伝達式にご出席の李永得文化部長や陳儀深国史館館長がそうですし、児童文学作家の林真美先生と政治大学の薛化元教授は今も曾て『王子』の小読者だったことを自称しておられます。現在では私が仰ぎ見る政治家や学界の大師、そして台湾を支える屋台骨へ成長されました。

現在の日本と台湾の政治・社会・文化面におけるリーダーたちが、幼いころ吸収していたのが同じ文化の素養だと考えてみると、中山防衛副大臣（註：当時）の「台湾は日本の兄弟であり家族だ」という言葉にも合点がいきます。苦難を前にした時の兄弟は、心を一つに力を合わせれば、困難を乗り越える力はより大きくなります。一生涯日本を愛し、彼の言う「日本精神」で私を教え育てた兄に続いて、今日、兄弟で叙勲を賜るという名誉に浴すること<sup>1</sup>への感謝とともに、日本または台湾の有事の際には、我老いたりとも、不肖兄弟の一人として力を尽くす責務を担うことを改めて誓いたいと考えています。有難うございました。

1 蔡焜燦氏のご令兄、故蔡焜燦氏も平成26年春に旭日双光章を受賞されています。ご兄弟での受賞となりました。

## 飲水思源

元嘉南農田水利会会長 楊明風氏

日本国が私に「旭日双光章」を授与して下さったことに、深く感謝申し上げます。これは私の生涯の榮譽です。この榮譽は、農業委員会農田水利署嘉南管理处（元嘉南農田水利会）のすべての職員が力を合わせて努力した成果でもあり、すべての職員と分かち合いたいと思います。すべての職員に心から感謝いたします。

「飲水思源」は、台湾人が忘れてはならない人間性の基本となる精神です。嘉南平原のすべての生き物の飲み水と灌漑の水源は、天から適時降り注ぐ恵の雨のみならず、烏山頭ダム及び1万6000キロの用水路によって形成された灌漑システム「嘉南大圳」によってもたらされています。嘉南大圳は、嘉南平原を荒野から台湾の重要な穀倉地帯へと変貌させました。嘉南大圳の設計・建設者こそ、八田與一技師です。

嘉南大圳が嘉南地区の農業従事者に対して貢献した点は、以下の4点です。

1. 洪水、干ばつ・水不足、土地の塩害という3大課題の解決。
2. 3年輪作給水法を取り入れたことによる農業従事者の灌漑技術と収穫量の向上。
3. 誰も手を付けようとしなかった不毛の地を治水によって潤したことで、土地の価格を2、3倍に上昇させ、当時の土地全体の価値は9,500万円に達した。この額は、ダムの総工費4,200万円の約2倍。
4. 収入の増加によって、農業従事者の生活が改善され、レンガ造りの住宅が改築され、子どもたちが教育を受けられるようになったこと。現代的な農業の発展の礎となった。

農業委員会農田水利署嘉南管理处（元嘉南農田水利会）及び灌漑区域の農業従事者は、1978年から八田與一技師の命日である毎年5月8日に、

追想式を開催してきました。開催当初は、八田與一技師の長男である八田晃夫夫妻、中川外司・「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」事務局長ら多くの日本の友人が烏山頭ダムを来訪し、八田與一技師の銅像前で追想しました。なかでも、八田與一記念園区が完成した2011年の追想式は最も盛大で、頼清徳・台南市長（現副総統）、陳吉仲・農業委員会主任委員、馬英九・前総統などの重要な高官が参加しました。嘉南管理处は、追想式を通じて嘉南大圳を建設した八田與一技師の貢献を広く伝えることに、全力を尽くしています。同時に、この偉大なる土木技師に思いを馳せて、日本各地からの訪問者を厚くもてなすことによって、台湾と日本の民間文化交流活動の促進のために重要な役割を果たしています。

嘉南大圳は、着工から100周年を迎えました。私の会長在任中には、烏山頭ダムの重要な改修工事として、新烏山嶺導水トンネル工事を完成させ、曾文ダムの水源と烏山頭ダムの連携運用のために安全を確保しました。また、烏山頭ダムの外側斜面の増強工事を行い、ダムの安全を確保するとともに、100年に亘って使用されている烏山頭ダムを「老当益壯」な状態とし、烏山頭ダムがこれからも嘉南地区の水資源調達における要であり続けられるようにしました。烏山頭ダムを永続的に運用させることは、八田與一技師の精神を引き継いでいくための具体的な行動です。

嘉南水利会は、2020年10月に公共機関となりました。組織の形態が変化し、人員の変動があっても、「農業従事者への奉仕と農業の発展」という目的は変わりません。私は、農業委員会農田水利署嘉南管理处が今後も「飲水思源」の精神で八田與一技師を追想し続け、烏山頭ダムという繋がりを通じて、長い間続けられてきた日本との綿密な交流をさらに発展させ、これから何百年に亘って継続させていくことを確信しています。

最後に、台日文化交流の活発化と、双方の友情のますますの深化を祈念いたします。

嘉南大圳が五風十雨でありますように！